



イチョウ（イチョウ科）中国原産、落葉樹、葉は互生し、葉身は扇形で幼木では中央の切れ込みが深い、葉脈は二叉分岐を繰り返して先にいたる、銀杏は食用



スギ（ヒノキ科）山地には自生があるが、広く栽培されている、葉は小型の鎌の様な針形でらせん状にならぶ、樹皮は細かく縦に裂ける



ユリノキ（モクレン科）北米原産、落葉樹、明治初期に日本に持込まれた、葉の形から別名「ハンテンボク」、花はチューリップの花に似る。樹皮は細かく縦に裂ける



コブシ（モクレン科）落葉樹、葉は広倒卵形で、先は急に短くとがる。花は小枝の先に1個ずつつける。花弁は6枚。花の下に一枚の葉をつける。



クスノキ（クスノキ科）、自生有り、葉はつやがあり、3本脈が目立つ、葉をちぎると樟腦の香りがする、樹皮は細かく縦に裂ける春に一斉に葉が入れ替わる



プラタナス（スズカケノキ科）落葉樹、大きな球状果が垂れ下がる、銘板の木は「アメリカスズカケノキ？」



フウ（フウ科）中国原産、落葉樹、葉は互生し掌状に3裂する、縁には細かな鋸歯がある、別名「台湾フウ」、近縁種に「モミジバフウ（アメリカフウ）」がある



ソメイヨシノ（バラ科）落葉樹、枝は四方に広がる、葉より先に花が咲く、花柄は有毛、樹皮は老木では縦に裂ける、オオシマザクラとエドヒガンの雑種とされている



ヤマザクラ（バラ科）落葉樹、自生有り、花と葉が同時にでる、葉、葉柄、花柄は無毛、樹皮は横すじが目立つ、有名な吉野の桜はヤマザクラ



カナメモチ（バラ科）、自生有り、葉は光沢があり革質で堅い、縁には細かな鋸歯がある、新葉は紅色をおびる、別名「アカメモチ」



カリン（バラ科）中国原産、落葉樹、樹皮がはがれただら模様になる、大きな果実ができる



ケヤキ（ニレ科）落葉樹、葉はせまい卵形で先は長く伸び縁に鋸歯がある、樹皮は灰白色でのちに鱗状にはがれる、有用材として利用される



アキニレ（ニレ科）落葉樹、自生あり、葉は倒卵形～長楕円形で長さ2～5cm、縁には鋸歯がある、樹皮は細かく鱗状にはがれ斑になる



エノキ（アサ科）落葉樹、自生有り、葉は広卵形～広卵状の楕円形で先は短く尖る、葉の上半部に鈍い鋸歯がある、江戸時代に一里塚に植えられていた



マテバシイ（ブナ科）九州南部に自生、公園等に植えられている、葉の質は厚く裏面は褐色をおびる、ドングリは楕円形で大型



コナラ（ブナ科）落葉樹、自生有り、葉には柄があり、倒卵形から倒卵状楕円形であらう鋸歯がある、葉の裏は灰白色をおびる、薪炭材として利用される、ドングリができる



## 泉北ニュータウン新檜尾台・赤坂台の緑道で見られる樹木（その2）



クヌギ（ブナ科）落葉樹、自生あり、葉は狭い楕円形で長さ8～15cm、縁に鋭い鋸歯がある、葉の裏に毛はない、薪炭材として利用される、大きなドングリができる



シラカシ（ブナ科）山地に自生あり、葉は幅が狭く薄い草質で、鋸歯があり裏面は灰白色、ドングリができる。



アラカシ（ブナ科）自生あり、葉は革質で裏面は灰白緑色、基部を除いて粗い鋸歯がある、ドングリができる



ウバメガシ（ブナ科）海辺に生える、丸っこい葉は堅い、樹皮は縦に裂ける、備長炭の材料となる、ドングリができる



ヤマモモ（ヤマモモ科）自生有り、雌雄異株、葉は枝先に集まってつく、鋸歯のある葉とない葉がある、果実は食用になる、写真は雄花



ナンキンハゼ（トウダイグサ科）中国原産、落葉樹、葉は菱形で葉先がのび独特の形、樹皮は縦に裂ける、秋の紅葉が美しい



サルスベリ（ミゾハギ科）中国原産、落葉樹、樹皮がはがれずべすべになり、その樹肌に特徴がある。花は夏から秋に長期間咲く。



トウカエデ（ムクロジ科）中国原産、落葉樹、葉は対生する、葉は3つにさける、樹皮が縦に裂け、はがれる



ハナミズキ（ミズキ科）北米原産、落葉樹、白や紅色の花弁状のものは苞、先が凹む、樹皮は細かく網目状に裂ける、近縁の日本の自生種は「ヤマボウシ」



ヤブツバキ（ツバキ科）山地に自生する、葉は堅くて厚みが有り光沢がある、花弁は5つで基部は合着する。種子からツバキ油をとる、栽培品種が多い



サザンカ（ツバキ科）四国・九州に自生、庭園木として栽培されている、花は平開し1枚ずつ散る、自生種の花弁は白色、栽培品種が多い



クロガネモチ（モチノキ科）自生有り、庭木等として植栽される、葉は革質、毛はなく滑らか、葉柄や若枝が紫色をおびる、雌雄異株、赤い実を多数つける